

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	442	3年	後期	臨床検査学科	必修	院内感染管理学 Hospital Infection Management	15	1
担当教員								
竹内 一人	青野 晴考*			末盛 浩一郎*				
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	○ ③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	○ ⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
医療において感染症対策は重要な課題である。近年、新たな感染症のパンデミックが経験され、院内感染防止の重要性が再認識されている。また、感染症病原微生物に対する抗微生物薬剤の発展は著しいものがある一方で、薬剤耐性菌など新たな問題が生じている。院内感染管理学では、臨床検査技師が院内感染対策に貢献できるようになるために、その方策、理論を理解し、エビデンスに基づいた院内感染対策について修得する。								
到達目標（授業目標）								
①院内感染とは何か、院内感染の現状について、インフェクションコントロールチームの役割について説明できる。								
②エビデンスに基づいた感染対策について説明できる。								
③器材・環境などの感染管理について説明できる。								
④日和見感染菌対策、治療・処置に関連した感染対策の実際、感染経路別予防策に沿った感染管理の実際について説明できる。								
⑤インフェクションコントロールチームの中で臨床検査技師の果たす役割について説明できる。								
⑥薬剤耐性菌の感染症サーベイランスの活用、院内感染の実際例について原因探究、院内感染原因菌の遺伝子的検査による疫学調査の方法について説明できる。								
回	授業計画（項目・内容与方法・担当者）							
1回	院内感染の現状・院内感染の現状と院内感染対策の役割について講義する。・竹内 一人							
2回	感染対策の基本・院内感染対策の基本：標準予防策と経路別感染対策、感染管理に関する法令・届出、地域連携について講義する。・竹内一人							
3回	院内感染対策の実際（1）・ICTチームによる院内感染制御の進め方について講義する。・青野 晴考							
4回	院内感染対策の実際（2）・院内感染の予防について（ワクチン、デバイスの取り扱い）、院内感染対策活動の実際と問題点（感染症サーベイランス、アウトブレイク時の対応）について講義する。・青野 晴考							
5回	院内感染対策の実際（2）・免疫不全患者（がん患者、移植患者、高齢患者など）における感染対策について講義する。・竹内 一人							

6回	院内感染対策の実際（４）・院内感染対策における検査室の役割と業務について講義する。・竹内 一人									
7回	院内感染対策の実際（５）・感染制御に必要な抗菌薬の使い方、AMR、薬剤耐性菌の治療について講義する。・末盛 浩一郎									
8回	院内感染対策の実際（６）・高病原性病原体感染症の対策（新型コロナウイルス、新型インフルエンザ、エボラウイルスなど）について講義する。・末盛 浩一郎									
9回										
10回										
11回										
12回										
13回										
14回										
15回										
16回										
17回										
18回										
19回										
20回										
21回										
22回										
23回										
24回										
25回										
26回										
27回										
28回										
29回										
30回										
成績評価方法及び基準										
竹内担当部分50%、青野非常勤講師・末盛非常勤講師担当部分それぞれ25%（内訳：筆記試験のみ）。 評価は100点満点とし合計60点以上を合格とする。										
教科書	資料を適宜配布									
参考図書等	浅利誠志・木下承皓・山中喜代治「実践感染管理」（金原出版）									
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
前回の項目について配布プリントを参考に復習する。次回の項目について教科書等を参考に予習する。										
関連科目										
前科目	424	微生物学	427	微生物学実習	425	臨床微生物学Ⅰ	426	臨床微生物学Ⅱ	428	臨床微生物学実習
後科目	447	医学検査診断学Ⅰ	444	臨地実習Ⅰ	446	臨地実習Ⅲ				
実務家教員										
医師（医療機関）	竹内 一人	末盛 浩一郎*								
看護師（医療機関）	青野 晴考*									
備考										